

敗北逆アナルEND フタナリ狼娘に持ち帰られて孕みお嫁さんにされちゃう話

プロローグ

「がう？ ニンゲン、おい、生きてるか？」

「…お？ ちゃんと、生きてるな？ よしよし♪ オマエは、今日から、ガウのモノだ、分かったな？」

「…ガウ？ オマエ達ニンゲン、ガウたちに負けた。四人、くらい居たか？ オマエ以外のニンゲンも、ガウの家族が一人ひとり、巣にお持ち帰り、してるゾ」

「負けたニンゲンは、もちろん、勝ったガウたちのモノになるのは、当然、だぞ？ …何か、気になること、あるか？ …ガウ？ ガウはオマエ、食べないぞ？」

「アレ？ ニンゲンの言葉だと、食べちゃう」って言うんだっけ？ ガウ？」

「ガウはフタナリワールフだから、お肉は大好きだぞ？ …なんで、後ろに下がるんだ？ そんなに広くないから、もう下がれないぞ？」

「ニンゲン、オマエは今日からガウのモノ、ガウのヨメにする…ガウ？ 言葉の意味、分からない？ ウウ…ニンゲンの言葉難しい…」

「ガウのヨメになるということは、子供作るってことだ」

「ガウは、オマエを孕ませるぞ♪ フタナリチンポで、子供できるまで、食べちゃう」だぞ♪」

「そのためにオマエ、ガウの巣に連れてきた。わっっ！ 逃げようとしても無駄、分かるな？」

「ガウの足、オマエよりも全然速い♪ オマエよりも力全然、強い♪ 大丈夫安心しろ、ガウ、オマエのこと大事にする。」

「オマエ、ガウのツガイだからな♪」

「さっきより、美味しそうなカオになってる♪ 今度は反対側の耳もマーキングしてやるゾ♪」
「ちゅっじゅっ、じゅるじゅるっ、じゅるるっ、ちゅっ、ちゅっ、んっ♪、ちゅむちゅむちゅむっ、ちゅむりゅっ。んっ♪、ちゅっ、ちゅるちゅっ、むちゅむりゅっ、ぬちゅぷちゅっ、ぬりゅっ、ぬちゅっ、ぬちゅぷちゅっ、ぴちゅりゅっ」

「んんっ…ハッ、ハッ、ハッ」

「オマエのココ…チンポも、穴もしっかり、マーキング、する♡ ちゅっ、ちゅっくっ、ちゅぷっ、んっ♪、んんっ♡ 発情のニオイ♡ スゴイしてきた♡ ちゅっ、ちゅっぷっ、んんっ♡ んっちゅっ、ちゅりゅんっ」

「ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡ オマエのチンポもガウのモノ、だからな♡ ちゅっぷっ、んちゅっ、ちゅるちゅるっ、ちゅっくっ。ちゅっほっ、ちゅほっ、んっ♪、ちゅほちゅほっ、ちゅっほっ、ちゅるるっ、ちゅるるるっ、ちゅりゅっ、んっ」

「ちゅりゅちゅるっ、ちゅるるっ、ちゅりゅりゅりゅっ、んっ、んんっ、んんんっ、んんんんウウっ！ んあっ、ハッ、ハッ…なんだオマエ、舐められて、ガマン、できなかったのか？」

「気持ちいい、止まらなかった？ わうわうっ！♪ 一回出しただけ、大丈夫。まだ、チンポ勃ってる♪、ガウも、ギンギン♪、美味しそうなニオイ、どんどん濃くなってる、ぞっ♪」

「…わおおんっ！ ハッ、ハッ、ハッ♡ ガウ、オマエのせーの匂いでもうガマンできないゾ…♡ ハッ、ハッ、ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡」

「ガウしってる。このあなにふたなりちんぼいれて交尾するんだゾ。あれ、最初に祝福してからだっただかな？ まあ、どっちでもイイ。けつ穴、ガウのマーキングでとろとろだから…♡んお♡ おっ♡」
「ガ、ウッ！…ンオッ♡ ニンゲンの穴、きつくて、気持ちいい♡ ハッ、ハッ♡ ニンゲンもチンポ、さっきよりガチガチ♡ 発情のニオイ、すごい出てる♡ 舐めるときより、全然濃い匂いしてるぞ♡ ハッ、ハッ、ハッ」

「ケツ穴、入れただけで、発情してる？ オマエの体、喜んでる♡」

「アハア♡ ガウも嬉しい。交尾気持ちいい♡」

「ハッ、ハッ、ハッ♡ 見ろ♡ ゆっくりだけど、ガウのふたなりチンポ飲み込んで、いつてるゾ♪」

「あおん！♡ すっごく締まるウ…うオ…♡ おオオ…♡ んオ♡ 全部入っていつてるウ…んっ…痛いか？ 大丈夫そうだな♡ それより気持ちいいの、勝ってるの分かってるぞ♡ さすが新しいカミ様の祝福タ♡ ハッ、ハッ、ハッ」

「ガウがオマエ食へるのに…ふたなりチンポお♡ ケツまんこに食べられて、るウ…♡」

「うおおんんっ♡ スゴイっ♡ あっ♡ うっ♡ うおんっ♡」

「ガウのおつきなふたなりチンポ♡ ニンゲンの穴に、全部飲み込まれてるウ…♡ ハアッ♡ ハッ♡ ハッ♡ ハアッ♡ ハアッ♡」

「そのままスボスボして、中にせーしばい出してやる♡」

「そしたらオマエ、ガウのせーしで祝福されてカゾクになるんだゾ」

「アオン♡ ん、ンオ♡ ケツまんこスゴイ♡ ガウのふたなりチンポ、キュウキュウ締め付けてるウ♡
♡ ンンンツッ！♡ ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡」

「もうガマンしなくてイイ♡ アオン♡ オマエ、全部、ガウのモノ♡」

「アオン♡ おウ♡ んんんっ♡ おっぐウ♡ ズボズボされて、オマエ、また発情してるっ♡」

「ケツまんこ犯されて、声出てるゾ？♡ 犯されて、感じてるんだな♡ いいぞ♡ もっと声出せ♡
出せ♡」

「オマエが興奮してるの、すごくイイ♡ ガウ、ゾクゾク、する♡ もっと、いっぱい突いてやるから
な♡ んっ♡ おっ、おお…おおウ♡ んあっ♡ んっ♡ ホントに、キツイ♡ すごい、気持ちいい。ずっ
と動いてたい♡ もっと奥まで突き上げてやる♡ んんっ！♡ ああっ♡ すごいっ、すごいっ♡」

「ケツまんこ♡ 初めて？ だよな？♡ それなのにっ♡ こんなにチンポ、受け入れてるの♡ イ
イぞ♡ んっぐっ♡ 祝福すごい♡」

「ガウいっぱい動く♡ もっと速く動く、もっと、感じさせてやる♡ …おん？ ああ、安心しろ♡
オマエの体、ガウのコト、もう受け入れている♡ オマエ、分かってない？♡ おオン！♡ アオン♡ お
ん、おおん！♡ おっぐっ♡ おウ♡ おオン！♡ ほらっ♡ すごいだろ？♡ 全然、大丈夫♡ ど
んなに、ズボズボ♡ ズボズボしてもお！♡ ンンウー！♡」

「ニンゲンの穴、壊れたりしない♡ …もう、オマエの体が孕み袋になるコト、受け入れてるだけ♡」
「犯されるの♡ 喜んでる♡ まだ、わかってない？♡ わう！ ワオン！♡ …分かるまで、ガウが
いっぱい犯すから、大丈夫♡」

「ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡ ハアツ♡ ハアツ♡」

「思った、とおり♡ オマエの体、ガウのチンポ欲しがってる♡ オマエも分かっているだろ？♡ キュウキュ
ウ締め付けて、絞り上げてきてる♡ ガウのせーし♡ 欲しがってる♡ 自分から、孕みたいと思
ってる♡ んっぐウ♡」

「ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡ ハアアツ♡」

「交尾♡ すごいつ♡ もっと、もっと動く♡ ンオ♡ ふたなりチンポ♡ 奥までっ♡ ズボズボ♡
気持ちいい♡ んんんぐウー！♡ あ、あっ♡ あオ♡ オマエもそうだろ？♡ アオン！♡ ケツまんこ犯
されて…んウ♡」

「ニンゲンチンポ、プルプル震えて、せーし、出したくなってる♡ 気持ちいい、止まらないの分かって
るゾ？♡ ズボズボ、スキ？♡ ガウのふたなりチンポ、スキ？♡ ガウはオマエのケツまんこ♡
気に入った♡」

「ワオオン！♡ おっ、おっ、おっ♡ おオ♡ しっかり祝福、するからナ♡ アウ♡ アオ♡ アオオン
ツ！♡ せーし♡ 上がってきてるっ♡ ケツまんこ♡ すごいイイ♡ ガウのふたなりチンポ♡ び
ったり♡」

「ンンンンンツ！♡ あっ♡ あっ♡ あオ♡ おオッ！♡ おっぐっ♡ んんんんオっ♡♡♡」

「孕み嫁の儀式、オマエの中にせーし、ドバドバ、出して♡ カックにして♡ ガウたちのゴドモ、つくる♡ ケツまんこ♡ 気持ちいい♡ 気持ちいいイッ！♡ ガウ、もう止まらないぞ？♡ んんっ！」「もっと鳴き声出しているゾ♡ オマエもガウと同じ、獣になるんだゾ♡ 気持ちいい、すぎて♡ おかしくなるっ♡ んっ、んんっ！アオオオンー！♡♡」

「アハア♡ もうっ♡ クるっ♡ ガウ、せーし♡ 出るっ♡ もうっ♡ 出るっ♡ 出すっ♡ 祝福する♡ せーし♡ 出すぞオー！♡」

「おっぐっ♡ おっ♡ オオー！♡ おっ♡ おオー！♡ オオオンツー！♡♡♡」

「ハアツ♡ ハアツ♡ ハアツ♡ ハアハアツ♡♡♡♡ イくッ♡ 全部、出すゾ♡ んっぐウー！♡ イグッ♡ イグッ、イツ、グウオオおおんんっっー！♡♡♡」

「んんウ♡ あっ♡ あっ♡ あア♡ ハアツ、ハアツ、ハアツ♡ んっ♡ ああ…♡」

「ガウのせーし、オマエの中に全部、出したぞ♡ ハッ、ハッ、ハッ、ハアツ、ハアツ…♡ これから、毎晩、オマエと交尾する♡ オマエに祝福して、孕みヨメにしてやる♡」

「ガウとのゴドモ、作る♡ わっわっ♡ いずれはたくさんゴドモ産んで、ガウたちの群れ、作るぞ♡ ハッ♡ ハッ♡ ハッ♡ すごく楽しみ♡ ガウ、オマエのこと大事にする、からな♡」

「わっわっ！♡ わおおおん！♡」